

その名もズバリ、『帝王の美学』

# ジョルジオ・アルマーニの伝記が出ます。人生の参考に!!

## BOOK

ジョルジオ・アルマーニ氏が自らの会社を立ち上げたのは、1975年、41歳になった年。以来、世界をリードする理由を服飾史家の中野香織さんが読み解きます。

文/中野香織

## 先

日行われた2008年春夏ミラノメンズコレクションで、「南へ向かう」トレンド

の基調を最も明快に、貫禄をもって示したのは、アルマーニだった。

地中海の風に吹かれていたかのような、軽やかで、力みのない、エレガントな男たちがランウェイを歩き、70歳を超えてなお、鋭く時代を見抜き、次なる時代の方向と自分の美意識の融合点をスマートに形にしている感性と創造力はますます冴えているように見える。報道によれば、アルマーニはコレクションについてこんなふうに語った。

「みんなリラックスして、ヴァケーションに向かわなくてはね」

でも、イタリアの高額納税者層付で一位に輝き、すべてを征服して「帝王」どころか「神」の領域に住むかのようなアルマーニの現在のステイタスは、ヴァケーションなき仕事人生から生まれているのだ。仕事事の喜びを味わうためなら自由な時間などいらぬ」というアルマーニの冷徹な努力の成果を、ヴァカンスに向かう男たちが気ままに無頓着に消費する。モード界のアイロニックな構図がひとしお感慨深く迫ってきたのは、「ジョルジオ・アルマーニ

帝王の美学』を読み終えた直後だったからでもある。

「毎日、今より1センチでも高いところに到達しようと挑み続け、ほぼすべてのエネルギーを仕事に注いでいる」仕事熱愛人間、ジョルジオ・アルマーニ。驚異的な成功をなし遂げ、今なお挑戦し成長し続ける、偉大なクリエイターにして企業家の、幼少時から現在までの道のりを、膨大な資料と大勢の人々の証言をもとに、がっちり骨太にまとめ上げたのは、ベテランのファッションジャーナリスト、レナータ・モルホである。

## 鋭

い眼光を放ち、常に一貫したイメージの完璧なルック

スで人々を魅了するミステリアスな男、ジョルジオ・アルマーニその人の伝記として興味深いのもちろんのこと、ラグジュアリーブランドグループの買収競争に巻き込まれることなく、デザイナーにして単独株主にして代表取締役社長という独立したステイタスを保ち続けながら、彼がアルマーニ社を成功に導

いてきた秘密を満載したビジネス書として読んで示唆に富む。

また、アルマーニ本人や会社の成長が語られる中で、1960年代から現在に至るまでの世界情勢およびファッション事情の変化が、おのずと背景として浮かび上がってくるのも圧巻。つまり、現代ファッション史としても読み応えある本なのである。

だから読む人の関心に応じてさまざまな収穫を与えてくれるのであるが、どんな関心から読み始めようかと、読後、人生に対するアルマーニの姿勢に圧倒され、思わず背筋が伸びる思いがする……という点で相通じる読者は多いのではないか。

「偶然から」始めたデパートのバイヤー時代にセルツェイに見いだされて頭角を現し、公私のパートナーとなるセルジオ・ガレオッティとともに「ジョルジオ・アルマーニ社」を設立したのが41歳のとき。いわゆる「遅咲き」ながら、その後あれよあれよという間にアルマーニを別格のブ

## 実

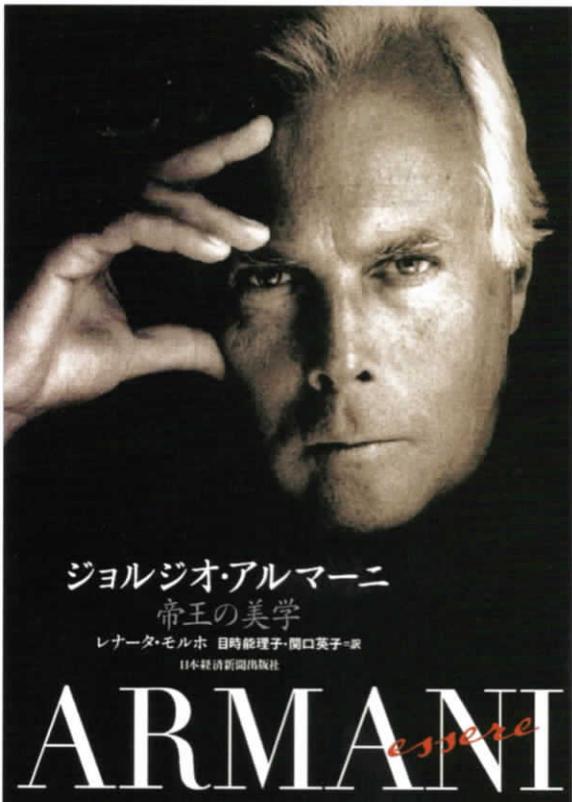
際、最愛にして最強のパートナーに先立たれたとき、

経営のイロハも知らなかったアルマーニは、1年かけて自社のことを研究し、その後すべての業務を掌握して経営者としても辣腕をふるい始める。人生最大の難局にぶつ

かっても事態を真正面から受け止め、自分自身と戦い、誰も予想しなかった新しい才能を開花させていくのである。クリエイターと経営者、二つの役割を演じ分けることに楽しみさえ見だしていく強靱な意志というか生命力には、ほとんど鳥肌が立つ思い。そういえば2000年に製作されたアルマーニ密着ドキュメンタリー映画のタイトルは「A Man for All Seasons」、すなわち「すべての状況に対応できる男」であった。

とはいえ、「自分のアイディアをことごとくまで信じていること。本能的な動に逆らうと、その決定は必ず裏目に出る」と自分を信じる強みを語るアルマーニを讀める話ばかりじゃあ、肩が凝る。「アメリカン・ジゴロ」のために40着の衣装をアルマーニに注文しながら、直前になって「アーバン・カウボーイ」を選び、結果、リチャード・ギアを80年代のセックスシンボルにすることに貢献してしま

ったジョン・トラボルタのおまぬけ話など、ミスターな興味にも応えてくれる映画界周辺エピソードもいろいろと書かれている。そんな配慮もアルマーニ風リラックスに見えてしまうほど、本書にもまた完璧なスタイルを感じる。



「ジョルジオ・アルマーニ 帝王の美学」日本経済新聞出版社

アルマーニ氏は1934年7月11日生まれ、75年、ジョルジオ・アルマーニ社設立→07年7月11日、73歳に。これらの点を結ぶ線は意志のドラマに彩られ、ものすごく太い。著者はイタリアの経済紙にも寄稿するファッションジャーナリストであり、「帝王」のアルマーニ氏のクリエイティブ面だけでなく、ビジネス面の才能にも深く切り込む。取材にはアルマーニ氏本人が協力し、著者はアルマーニ氏の会社の資料庫への自由な出入りを許されたという。結果、100点以上の貴重な写真も収録された。著/レナータ・モルホ 訳/目時能理子、関口英子 装丁/坂川栄治+田中久子(坂川事務所) カバー写真/© Julian Broad ¥2,940

中野香織  
Kaori Nakano

服飾史家、コラムニスト。英国ケンブリッジ大学客員研究員などを経て文筆業に。著書に『スーツの神話』『着るものがない!』『モードの方程式』など。連載は「日本経済新聞」はじめ、本誌でも「その着こなしに理由アリ」が好評。

